



強まる穀物値上がり圧力

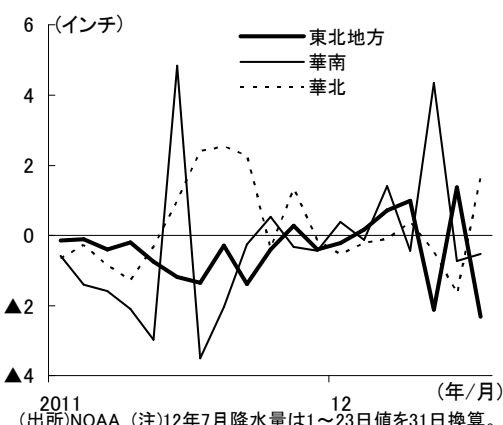
～ 続く中露印の旱魃 ～

- (1) 7月第4週に入り穀物価格が一転して大幅下落(図表1)。1ブッシェル当たり単価を直近ピークの20日と24日で対比すると大豆は17.6ドルから16.2ドル、コーンは8.2ドルから7.8ドル、小麦は9.4ドルから8.6ドルに大幅低下。アメリカ中西部での降水予報が材料。さらに大豆やコーンでは世界最大のアメリカに次ぐ有力生産地の一つであるブラジルやアルゼンチンが今季、豊作予想。全体としてみれば、今回の穀物価格上昇は一過性のインフレとの見方も台頭。
- (2) しかし南米が豊作でも、他の主要生産地では依然深刻な旱魃。まず、コーン生産量が2億トン前後で、3億トン台のアメリカに次いで世界第2位の中国をみると、7月に入り主要生産エリアである東北部の降水量が再び例年を大幅に下回る少雨(図表2)。華北エリアでは一見、例年並みを回復。もっとも21日北京を襲った未曾有の豪雨にみられるような集中豪雨による降水増の側面を否定出来ず。さらに米作中心の華南エリアは少雨継続で、平年差の降水不足は6月と同水準。
- (3) 次いでウクライナ、さらにチェルノーゼムが続くロシア南部、北カザフスタンエリアをみると、コーンの生産量では4千万トン前後と小規模ながら、域内消費が少なく、例年2千万トン弱と4千万トンのアメリカに次ぐ世界的な輸出拠点。コーンや大豆の主力生産地である北部ウクライナ5州の主要都市では、7月に入り、降水不足が緩和に向かう兆しもみられるものの、例年比大幅な高温が継続(図表3)。乾燥した土壌の回復は依然困難。
- (4) 最後にインドの旱魃継続。オリッサ州をはじめ米作中心の北東部では7月に入り例年を上回る降水。しかし、パンジャブ州をはじめ同国最大の穀物生産エリアである北部では依然深刻な旱魃(図表4)。南部も総じて同様。仮にアメリカ中西部で予報通りの降水でも乾燥土壌の回復には力不足。以上を要すれば穀物価格が一段と値上がる懸念大。さらに一時的物価上昇で終息する可否か予断を許さず。

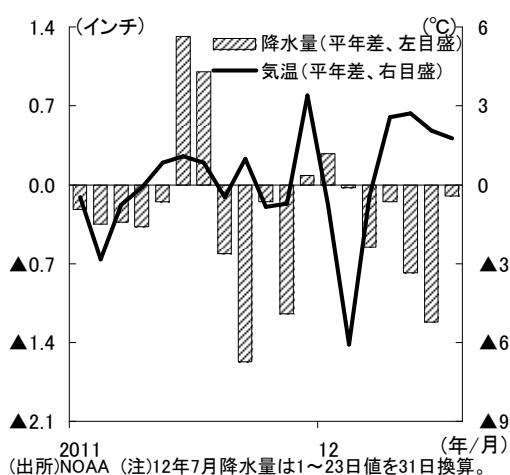
(図表1)小麦とコーン、大豆価格の推移



(図表2)中国エリア別降水量



(図表3)ウクライナ北部5州主要都市の気温と降水量



(図表4)インド北部6州主要都市の気温と降水量

